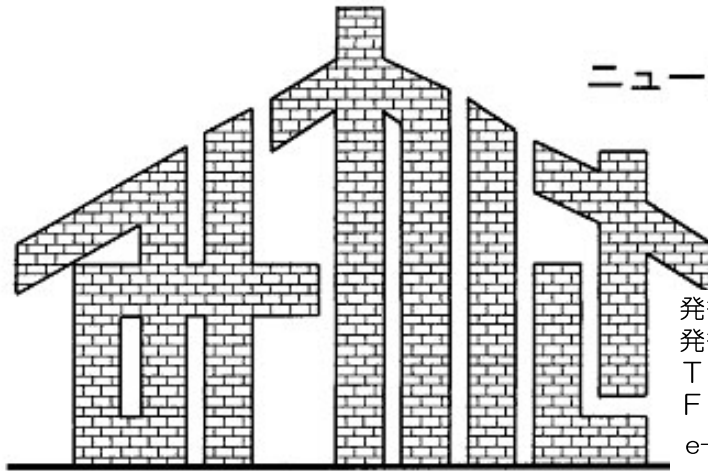


2020年

MONTHLY MIKASA NEWS



ニュース

4

月号

発行日：2020年3月28日
発行者：カトリック横須賀三笠教会
TEL：046-823-0042
FAX：046-823-1031
e-mail：mikasa-news@cap.ocn.ne.jp

新型^{しんがた}コロナウイルス問題^{もんだい}からミサ^{かんが}を考える

みかさきょうかい しゅにんしさい はまきまきさき み
三笠教会 主任司祭 浜崎眞実

新型^{しんがた}コロナウイルス問題^{もんだい}の影響^{えいきょう}でさまざまな集会^{しゅうかい}などが中止^{ちゅうし}や延期^{えんき}になり、行動^{こうどう}が制限^{せいげん}されています。仕方^{しかた}がないところと疑問^{ぎもん}に思う^{おも}ところもあります。

教会^{きょうかい}では、司式^{ししき}する司祭^{しさい}（私^{わたし}ですが）の体調^{たいちよう}が悪^{わる}くない限り^{かぎり}「主日^{しゅじつ}のミサ」は実施^{じっし}します。いつもより体調^{たいちよう}には注意^{ちゅうい}をはらい、ミサ前^{まさ}には手洗^{てあら}いなどを入念^{にゅうねん}に行^いってごく普通^{ふつう}にミサをします。社会^{しゃかい}の状^{じよう}況^{きよう}（感染^{かんせん}の拡大^{かくだい}や身近^{みぢか}な地域^{ちいき}で罹患^{りかんしや}者^でが出るなど）を注視^{ちゅうし}しつつ、ミサについてどのようにするのかわかると判断^{はんだん}し工夫^{くふう}できるところは工夫^{くふう}して続^{つづ}けていきたいと考えています。信徒^{しんと}の皆さんも、自分^{じぶん}自身の体調^{たいちよう}や気持ち^{ちいき}などに不安^{ふあん}などがある場合は無理^{むり}することなく、お休み^{やす}になってご自分^{じぶん}のお家^{うち}で祈^{いの}りのうち^{うち}に主^{しゅ}の日^ひをお過^すごしくださればと思います。

はっきりしない中^{なか}で、さまざまな情報^{じようほう}があり、何が正^{ただ}しいかはわ分かりませんが、こういうときだからこそ、不安^{ふあん}や恐怖^{きょうふ}心^{しん}から曖昧^{あいまい}さを許容^{きよう}できなくなり排除^{はいじよ}の境界^{きょうがい}線^{せん}ができることに気^きをつけたいものです。「正^{ただ}しい考^{かんが}え→正^{ただ}しい実^{じっ}践^{せん}」という枠^{わく}組み^{ぐみ}では対^{たい}処^{しよ}できない出来^{でき}事^{ごと}が起^おきているようです。こういうときには「してはいけないこと。避^さけるべきこと。何^{なに}か」をかんがえて、それをもとに自^みら^ずの振^まる舞^{まい}いを振^ふり返^{かえ}ることが肝^{かん}心^{しん}でしょう。そして「全てのいのちを守るため」という教皇^{きようこう}フランシスコ^{ほうにち}の訪^{ほう}日^{にち}メッセ^{こころ}ージ^とを心^{こころ}に留^とめるなら、弱^{よわ}い立^{たち}場^ばに置^おかれてい^{ひと}る人^{ひと}への想^{そう}像^{ざう}力^{りよく}を働^{はたら}かせることが大^{だい}事^じでしょう。その上^{うへ}で偏^{へん}見^{けん}と差別^{さべつ}が蔓^{まん}延^{えん}し疑^ぎ心^{しん}暗^{あん}鬼^きな社会^{しゃかい}にならないようにど^どのよう^{よう}に働^{はたら}きか^かけるの^のか^かを考^{かんが}え行^い動^{どう}する^{すべ}ことが教^{きょう}会^{かい}の役^{やく}目^めではない^{ではない}でしょう^か。私^{わたし}たち市^し民^{みん}の自^じ己^こ決^{けつ}定^{てい}が制^{せい}限^{げん}さ^される^さる^る法^{ほう}律^{りつ}も作^{つく}られてい^{なか}る^{なか}中^{ちゆう}で教^{きょう}会^{かい}と^しして自^じ己^こ決^{けつ}定^{てい}を狭^せめ^めたり無^なく^くし^したり^りする^す動^{どう}き^きには警^{けい}戒^{がい}を怠^{おこ}らな

いようにしていきたいものです。その意味で、一人ひとりが「見る。判断する。実行する」を実践していただければ嬉しいです。

<ミサとは>

遵法精神の旺盛なこの国の人々に合わせて、国家に追随して「良い子」になることは、キリスト教の取り組みとしてはふさわしいことでしょう。しかし、ガリラヤの民衆と一緒に「罪人」とレッテルを貼られ、一緒に穢れを身に受けたイエスの生き方とは別ものになるのではないのでしょうか。当時の文化的背景では穢れは感染し伝播するものです。穢れが感染するのを避けるのではなく、むしろ穢れを身に受けたのがガリラヤでのイエスの神の国運動でした。罪人（社会規範からそれていると見なされているが故に差別されている人）との共食という形がイエスの食卓でありミサの源流とするなら、ミサのあり方も安全第一でいいのか問われます。ミサとは何でしょう。ミサに対しての理解の仕方によってこの度の対応は違ってきます。ミサはガリラヤで生きたイエスの「危険な記憶※」とつながる祭儀でもあります。もちろん何でも「大丈夫さ〜」というわけではありません。なんらかの工夫と配慮は必要ですが、少なくとも安全対策と組織防衛のための責任回避ではミサの本来の力は発揮されないのではないのでしょうか。

ミサについてはこれまで祭壇で手をつくとか、聖櫃への礼とか、カズラの着用とか、ローソクの本数など、事細かに指示が出されました。今回はミサを中止するとかそれぞれの事情を踏まえてそれぞれに判断するようにとしか伝えられていません。社会的なことについての発言には期待しませんが、ミサに関してもう少し踏み込んだ指針が出されてもいいのではないかと思います。

<小教区の現場から基本的なことの確認>

このような状況で現場にいる者としてミサとは何かを考えるための基本的なことを示すと次のようになります。①ミサとは、契約再締結の儀式です。②その源流はガリラヤで生きたイエスの罪人（社会的規範からそれていると見なされて、差別され排除されている人）との共食の実践にあります。③安息日は平等社会へのプログラムです。これらのことを踏まえて、私たちの社会には「多数の者の安全のためには、少数の者が犠牲になるのは仕方がない。むしろそれは美しい」という考えが水面下にあり、何か事が起こるとそれが表面化してきました（関東大震災時の朝鮮人や中国人の虐殺等）。それは「カイヤファの論理」（ヨハ11:50, 18:40）とも呼ばれるものです。このような考えによって十字架の死に追いやられたイエスを記念するのがミサです。偏見や差別が表面化することで排除が起き、そこには境界線が引かれ壁ができます。ミサはその排除の境界線を壊す働きを本来もっているのではないのでしょうか。

※危険な記憶：ミサでは「主の死を思い、復活を讃えよう。・・・」と唱えます。イエスの死を思うことは、この世の中で抑圧と差別を受けている人々の側に立って政治・経済の権力構造に抵抗して生きることを呼び覚まします。その実践

は権力の側からの「暴力」をある程度覚悟しなくてはならない現実面に直面します。それでもこの世の価値観に抗って生きようとするのがキリスト者です。それはこの世の権力者たちにとっては限りなく「危険な記憶」になるのです。昨年亡くなったドイツの神学者J. B. メッツは「主イエス・キリストの受難と復活の記憶」ということばをよく使っていたとのことです(『カトリック新聞』2019年12月22日号)。「イエスの十字架は、他者の苦しみを前にして私たちが諦めることに対する挑戦であり続ける。また復活は、ダイナミックな希望のビジョンを与える。これは、歴史における世界中の『苦しむ者たち』への記憶を鈍らせるのではなく、むしろキリストの傷の中に常に想起させるものであり続ける」(J. B. Metz: Faith in History and Society, p. 109)と述べています。(山口里子『新しい聖書の学び』143—147頁、『いのちの糧の分かち合い』215頁参照)

3月の教会委員会

3月1日(日)、8日(日)に開催された教会委員会の報告です。

1 ミサについて浜崎神父様の説明

① 新型コロナウイルス問題からミサを考える

責任回避のために安全第一のミサを行うことは行きすぎなのではないか。私たちにできることは、恐怖や不安が増幅されないように止める、デマに乗せられないように注意する、自分自身を守るために効果のある感染症対策を行うこと。

② ミサをよりよく祝うために

アドルフ・ニコラス S. J. 「教会の秘跡としてのミサ」を紹介して、日常生活の喜び苦しみを悲しみを持ち込まないとミサは単なる儀式になってしまう。

2 典礼暦と行事

① 3月、4月について確認しました。

【意見】役割分担は、出来る人、慣れている人に固定化せず、新しい人に交代していくと「役割のなり手がいない」という問題が解消される。

3 協議事項

(1) 教会委員会報告会の準備

① 資料の点検、訂正を行い、報告会の目的などを確認しました。

(2) マルチノ会

① 会計報告がありました。

(3) 上原神父様の金祝のお祝い

① 10月11日(日)または18日(日)にミサとパーティを行う準備を進めます。

【注】三笠教会出身。現在は沼津、三島、熱海を協力司祭として担当し、湯河原在住。三笠教会出身では久我神父様も2年後に金祝になります。

(4) 6月6日(土) 大津教会で開催の名古屋司教区松浦司教様の講演会

① 協力金の支出を承認しました。

(5) 平和旬間(8月6日～15日)の講演会

① 山本富士夫福井大学名誉教授に講演を依頼する交渉を進めます。

【注】ご自身の父親が南京攻略に関わっていたので、当時の従軍日記を出版し、

南京に謝罪をするという趣旨で活動している方。

(6) 聴覚障がい者の方たちへの合理的配慮

① 9・10月に試聴を予定し、アシストホーン、リオネットの2社に依頼します。

(7) ユニバーサルトイレ

① 中長期計画での設置を検討しています。当事者の意見聴取、設置場所、設置時期、予算などを検討するプロジェクトチームを発足させる必要があります。

4 報告連絡事項

(1) 典礼

① 祭壇布を新調しました。

② 来年は朗読台、再来年は書見台の祭壇布の購入を予定しています。

【注】典礼空間は五感をもって参加する場所なので、いろいろな色や刺繍で、今日はどういう日なのか見たら分かるような工夫です。

(2) 教会学校

① 3月15日(日)の送る会はパーティを中止し、十字架の道行き後に6年生にプレゼントを贈りました。

② 新年度の受付「教会学校からのお知らせ」を4月受付当日に保護者に配布します。

③ 夏合宿は中止とし、代わりに遠足を充実させて5月か9月に実施します。

(3) 共同宣教司牧

【信仰を伝える力】

① 今使っているテキストは、キリスト教の紹介として今の若者たちに通用しない。自分の言葉で自分の信仰を語る必要がある。入門講座とは別のグループとして、初めて教会に来た人たちとミサとの繋がりを作るように、ミサの前か後で、「聖書と典礼」の福音を読み共同祈願を作り、信者とこれから洗礼を受けようとする人たちが一緒に祈るようにすれば、神の愛を証しする社会とのつながりと、信仰を伝えることと、祈ることの三部門が凝縮した集いになる。

(4) 総務

【施設管理(営繕)】

① 新しい維持費箱が2月29日完成しました。利用の時は確実に入ったか確認してください。

② 合葬墓の新設工事の進行状況について報告がありました。

【教会事務】

① 2年後3年後には事務員を有償ボランティアに移行していきます。

【注】教会は、イエスが託した使命を地域社会で私たちが果たすために、私たちの時間や能力、お金を提供して作り上げていく場所であり、時給いくら

はたら しくすてむ きょうかい には なじ まないからです。
で働くシステムは教会には馴染まないからです。

5 その他

- ① 聖堂及び信徒館の清掃について検討しました。
- ② 売店のあり方について検討しました。
- ③ ミサで全員がマスクを着用する必要はありません。

次回教会委員会は、2020年4月19日(日)11:30 からです。

2020年教会委員会報告会

3月8日ミサ後、お御堂にて教会委員会報告会が開かれました。司会、進行は2019年度の教会委員長、森田明子さんが務められました。報告会に出席されなかった方は、事務室に資料がありますのでごらんください。

開会の挨拶

教会委員長：森田明子

2020年三笠教会 教会委員会報告会を始めます。1時間を予定しています。全ての報告が終了してから質問をお受けいたします。

2019年は先ず教会の活動グループの見直しをいたしました。公認グループと任意のグループに分けました。資料にありますので後程ご覧ください。

そして、墓地納骨堂管理部門からご指摘がありました、納骨堂が予約を含めてほぼ空きの状態をどうするかという問題を受け、曹源寺の教会墓地に合葬墓を作ることになりました。4月以降の着工になります。

そして、教会の施設も古くなり、いろいろな箇所の修繕をしなくてはなりません。その為には年間170~200万円程必要です。教会の収入は主に皆様の維持費献金です。でも私たち信徒は高齢化が進み、維持費・献金は減少しています。その中でいかに対処していくべきか、支出の見直しをいたしました。同時に4月に施行された「働き方改革」をふまえ、事務のあり方を検討し、事務の方たちと話し合いの場をもって進めてまいりました。

教会の運営は、復活したキリストから託された使命、即ち福音宣教を果たす為、司祭・信徒がそれぞれ委ねられた立場と労力、時間とお金、それぞれのもっているものなどを出し合って協力し、奉仕するのが基本で本来の姿です。その為、教区からの指導を基に、2~3年でそのようにもっていかれたらと考えています。これらのことについては、担当の委員から報告・説明がございますのでご理解いただきたいと思ひます。

最後になりましたが、三笠幼稚園園庭改修費の協力は、昨年12月までに921,700円集まり、2019年分を支払いました。今年も引き続き協力の納入にご協力をお願いいたします。

主任司祭 浜崎眞実師挨拶

教会委員会報告会とは、教会委員会がこの1年どんな歩みをしてきたか報告する集い
です。教会委員会というのは基本、教会全体の運営を任せられているところです。

教会法という法律では「信徒会」というのは存在しません。信徒会と教会委員会とい
う二本立てでやっている教会がかなりあったようですが、前から教会委員会というのに
統合されて、それが教会の運営の責任ある母体です。教会法では、司牧協議会という主任
司祭の諮問機関との位置づけです。教会のあり方を考えたら主任司祭もその中に入って
協議して、話し合っただけで決まってしまう場です。その教会委員会からの1年間の報告、次年度
の方向を示すことが教会委員会報告会です。カトリック新聞の松浦司教へのインタビュー
記事も用意しましたのでご覧ください。

横浜教区では、10年以上前から各教会で3部門を実現するようと言われていた
のですが、現実としては縦割りになってしまう、それぞれの教会から集まってイベントをする
という事になって本来の3部門の意図から外れてしまっています。3部門というのは、教会
がキリストの教会であり続けるにはこの3つの視点から見直さないといけないという事
から始まったものです。自ら祈る力を育てる、神の愛を証しする力を育てる、自ら信仰
をつたえる力を育てる、この3つなのです。この3つが揃って初めてキリストの教会として
存在し続けることができるというのが本来の主旨です。教会によっては、盛んに活動グル
ープの行事やバザーなどがこなされています。横浜教区にはそのような教会がたくさん
あるけれど、実際にはキリストの生き方とはあまり関係がない、そういう教会になっ
ていないかというのが静岡にいた時の私の経験でした。そのまま放置しておく
と信者はいるけれど、共同体は死んでしまうという教会が静岡にはありました。自ら祈るの
ではなくて神父が来た時だけミサに与る。それは自ら祈る力を育ててこなかったし、
信仰を伝えることもできていない。残念ですが、共同体としては死んでしまった教会
です。そこをどうしたものかという事で10年以上前に教区で3部門を取り上げたのが
始まりでした。

名古屋教区の松浦司教が同じようなことを語っています。横浜教区の公式な文書とは
違う側面ですが、ねらっているところは同じです。教会は何のために存在するのか。教会
はいろんな人が集まっているけれど同床異夢でいいのか、キリストと同じ夢をみたい、
キリストから託された使命を果たそうという事です。そして松浦司教は、世界がどんな状
況であっても、我々は神の前に皆、大切な家族であり、大切な人であること。平和は武器や
暴力で実現するものではなく平和な道、キリストが歩んだ道を通して実現するとい
うことです。という考えを一貫しています。言葉を変えると人権と平和、キリストの夢見
ていることは人権と平和が実現された社会ということなのです。

復活のキリストから託された使命を果たすため

～国との関係のありかたを含めて考える～

はまきまきみ
浜崎眞実

中世ヨーロッパでは、国家と教会の関係では緊張関係が続き皇帝と教皇の権力争いが繰り返されたことは、遠い昔「世界史」の教科書で学んだことです。そのような問題は過去のことでしょうか。

<国家の存在が正当化される時>

国は法律を制定し、それを実行に移します。国家の存在が正当化されるのは、その国に生きるすべての人の自由・平等・安全を保障する限りにおいてのみです。つまり国家は人々の生活を保障するという公的責任を有しているということです。これが基本ですが、それは実現されているわけではないのも事実です。国がつくる秩序が誰をも排除していなければいいのですが、それはありえないことです。

人間が集まれば、どこかで境界線ができてしまいます。それが法律にまでなってしまうと排除の壁にさえなります。しかし、その社会の真ん中で生活していると排除の壁は見えません。排除されている人と出会って初めてその壁や境界線が目の前に現れてくるというのが、私たちの経験ではないでしょうか。そのとき、自らの加害性にも気づく可能性が出てくるのです。それは地域、家庭、学校、職場など、社会のさまざまな環境における集団の中で、否応なしに発生する権力勾配について自覚的になるということでもあるのです。

<これまでの宗教界の限界>

これまで、キリスト教界や仏教界など宗教者の間では、社会構造より個人のころのあり方に焦点をあててきました。そのため、社会の仕組みには無関心で、排除の壁や境界線が見えてきませんでした。あえて見ないで済むように、あるいは見えないように隠してきたのも事実です。見えないうちは、取り組みもできないのは当然のことです。一人ひとりに寄り添うことは大切ですが、抑圧や差別の構造をきちんと見てそれを除去することも同時に大切なことです。個別支援だけでは支配関係に陥ったり相手に負い目をおぼせたりする危険があるのです。そのような危険を回避するためにも、社会構造をしっかり意識できる場に身体を運ぶことは大切です。それを教皇フランシスコは「出向いていく」と表現しているのです。

<市民集會に参加して聞こえてくる声>

横須賀に異動してほぼ2年が経ちました。町内会活動に参加することも、子どもがいるわけでもないのに地元や学校現場で起きていることはよく掴めないでいます。教会にいて

も世間の人たちは「間に合っている」ようで、訪ねてくる人はほとんどいません。エホバの証人のように街角に立って「聖書を学びませんか」とアピールする勇氣も私にはありません。引きこもりになるか根無し草のようで、これでは復活されたキリストから託された使命である福音宣教とは関係のない生き方になると危惧しました。

そこで先日「よこすか・みうら市民連合プロジェクト」という集会に参加してみました。子育て、原子力空母の母港化、自衛艦たかなみの中東派遣、中学校の給食、火力発電所計画、自衛官募集のため自衛隊への名簿提出、などの問題を様々な市民の方たちが声をあげていました。教会という安全地帯には聞こえてこないし見えてもこない現実でした。これらの問題は横須賀の地域の問題であると同時に国家レベルの問題でもあると思いました。「何も考えない人は自然に集まって固まることが容易です。しかしものを考えている人は違いにこだわったりするので、なかなか一つになれない。違いを排除の理由にしないで豊かさを受け止めて一つに繋がって行きたい」とのメッセージがその集いで印象的でした。

<イエスの時代のシナゴグ（会堂）と教会の役割>

それを聴きながら、教会は思考停止で固まる集いになってはいないのかと反省することでした。横須賀で復活のキリストから託された使命を果たすため、すなわちイエスの弟子としての生き方をするために教会が存在するとするなら、このような課題ときちんと向き合うことが大事だと思うのです。それは教皇フランシスコの来日のテーマ「すべてのいのちを守るため(Protect all life)」を受け止めてそれに応答することでもあります。そもそもイエス時代のシナゴグ（会堂）は地域のコミュニティセンターとしての機能を果たしていました。そこを活動の拠点としていたのがイエスでした。現代においてイエスの活動の拠点となったシナゴグの機能をはたしている場はどこなのでしょう。

ねんどじぎょうほうこく しりょうさんしやう
2019年度事業報告 資料参照

ねんでんれいおよぎょうじ しりょうさんしやう
2020年典礼及び行事 資料参照

ねんしせつかんり えいぜん さぎょうほうこく しりょうさんしやう
2019年施設管理（営繕）作業報告 資料参照

ねんしせつかんり えいぜん けいかく しりょうさんしやう
2020年施設管理（営繕）計画 資料参照

ほそく ねんかん まんい ひよう みこ
補足：これから年間170～200万位の費用がかかる見込み

ねんしゅうしほうこく しりょうさんしやう
2019年収支報告 資料参照

ほそく けんきんしゅうにゆう ふそく いじかんりひ だいきぼしゅうぜん きんがく おお みこ まん ころじ
補足：献金収入は不足。維持管理費と大規模修繕にかかる金額は大きいと見込まれる、250万の黒字
りんじしゅう ほけん
は臨時収入と保険が入っているので実際は赤字である。

ねんよざんれんらく しりょうさんしやう
2020年予算連絡 資料参照

ねん がつ にち じむしつ りようびなど へんこう
2020年4月1日からの事務室の利用日等の変更について

ほそく しゅうし ししゅつ みぎかたあ しゅうにゆう みぎかたさ
補足：収支をみると、支出は右肩上がり、収入は右肩下がりとなっている為事務室としても見直した。

せいどうおよ しんとかん ぞうじ しりょうさんしやう
聖堂及び信徒館などの掃除について 資料参照

補足：鍵の問題があるので、後日各担当の方と話し合いをしたい。

活動グループについて 資料参照

教会委員の交代 資料参照

質疑応答

*売店の担当より質問

売店は日曜日だけに開店している。おつりを用意してミサの前後に販売している。普段はそうでもないが、手帳やカレンダーの販売の時は金額が大きくなってしまう。事務が閉まっているのであれば、その時のお金の管理はどのようにしたらいいのか。

*委員長よりの回答

委員会では話し合ってからお返事したい。
事務が土曜日休み、日曜日第一、第三以外は休みとなるが、ともかくやってみて不便な点があれば申し出てください。その時は対応いたします。

閉会の挨拶

配布資料

*2020年教会委員会報告会資料（総括）

*キリストと同じ夢を見る ～これからの教会共同体～

松浦悟郎司教インタビュー カトリック新聞より

マザー・テレサ会

笹森裕子

4月2日（木）の例会、及び4月の訪問は、新型コロナウイルス感染防止のため、残念ですが中止致します。尚、マザーテレサ会で復活祭に向けてメッセージカードを作成し、訪問している方に贈ることにします。

4 月 の 典 礼 と 教 会 行 事			
1	水		
2	木		19:00 講座：キリストと出会う（小畑・竹内）
3	金		
4	土		
5	日	受難の主日（枝の主日） ミサ 10:00	08:30 講座：キリストと出会う（田畑） 11:15 マルコ福音書を読む会
6	月		
7	火		
8	水		
9	木	聖木曜日 ミサ 19:30	
10	金	聖金曜日 ミサ 19:30	
11	土	聖土曜日 ミサ 19:00	
12	日	復活の主日 ミサ 10:00	08:30 講座：キリストと出会う（田畑） 11:15 マルコ福音書を読む会
13	月		
14	火		
15	水		10:00 聖書勉強会（浜崎師）
16	木		19:00 講座：キリストと出会う（小畑・竹内）
17	金		
18	土		
19	日	復活節第2主日 ミサ 10:00	08:30 講座：キリストと出会う（田畑） 11:15 マルコ福音書を読む会 11:30 教会委員会
20	月		
21	火		
22	水		
23	木		19:00 講座：キリストと出会う（小畑・竹内）
24	金		
25	土		
26	日	復活節第3主日 ミサ 10:00 英語ミサ 15:00	08:30 講座：キリストと出会う（田畑） 11:15 マルコ福音書を読む会 11:15 要理勉強会（シスター高橋）
27	月		
28	火		
29	水		
30	木		

Liturgy and Event of church - April 2020-			
1	Wed		
2	Thu		19:00 Study group of Mr. Obata, Mr. Takeuchi
3	Fri		
4	Sat		
5	Sun	Palm(Passion)Sunday Mass 10:00	8:30 Study group of Mr. Tabata 11:15 Study group of Mr. Meo
6	Mon		
7	Tue		
8	Wed		
9	Thu	Holy Thursday	
10	Fri	Good Friday	
11	Sat	Black Saturday	
12	Sun	Easter Sunday Mass 10:00	8:30 Study group of Mr. Tabata 11:15 Study group of Mr. Meo
13	Mon		
14	Tue		
15	Wed		
16	Thu		
17	Fri		
18	Sat		10:00 Bible Study(Father Hamazaki)
19	Sun	Divine Mercy Sunday (2 nd Sunday of Easter) Mass 10:00	8:30 Study group of Mr. Tabata 11:15 Study group of Mr. Meo 11:30 (KYOKAIINKAI) PARISH COUNCIL MEETING
20	Mon		
21	Tue		
22	Wed		
23	Thu		
24	Fri		
25	Sat		
26	Sun	3 rd Sunday of Easter Mass 10:00 English Mass 15:00	8:30 Study group of Mr. Tabata 11:15 Study group of Mr. Meo 11:15 Study group of Sr. Takahashi
27	Mon		
28	Tue		
29	Wed		
30	Thu		

(好きな色をぬってね)

Happy Easter!

